



二〇二〇年三月  
9号

# ヒビノリタ

「陶山神社」

〈特集〉

芭N音 SASA NO NE 009



短歌： 笹井宏之

1982年8月1日、佐賀県西松浦郡有田町泉山に生まれる。  
2004年、短歌を作りはじめる。  
2005年10月、連作「教えてやければ会えます」で第四回歌葉新人賞を受賞。  
2007年1月、未来短歌会に入会。加藤治郎に師事。同年度、未来賞受賞。  
2008年1月25日、第一歌集「ひとさらい」(Book Park)刊行。  
2009年1月24日、自宅にて永眠。(享年26)  
2011年1月24日、『えーんとくらから 笹井宏之作品集』(PARCO出版)、  
第一歌集『ひとさらい』、第二歌集『てんとろり』(ともに書肆侃侃房)、刊行。  
2013年8月1日、新録短歌『八月のフルート奏者』(書肆侃侃房)刊行。  
2019年1月10日、文庫版『えーんとくらから 笹井宏之』(筑摩書房)刊行。

ブログ「些細」 <http://sasai.blog27.fc2.com/>

イラストレーション： MATSUICHI

佐賀県伊万里市に生まれる。有田工業高校デザイン科卒。  
佐賀市在住。グラフィックデザイナーとして MATGRAPH を営む。  
小学生の頃スケッチ大会で入選した衝撃が  
絵やアート関係に興味を持つきっかけになる。  
2013年佐賀市 PERHAPS GALLERYにて初の個展「浮遊」を開催。  
その他グループ展にも参加している。  
グラフィックデザインユニット「0点楽第」所属。

<http://matgraph.net>  
matsuichi99@gmail.com

# 陶山神社

文=荒岡弥生

写真=片岡聰



近年のパワースポットブームで、社寺を旅する女性たちが増えている。彼女たちをハマらせるのが、参拝の証としていただけの御朱印。墨筆と朱色の押し印は社寺によって千差万別ゆえに、旅の記念とともにコレクションしたくなる気持ちがよく分かる。

ここ有田にも全国の御朱印ガールたちに訪ねてほしい一風変わった神社がある。有田町大樽にある「陶山神社」には女性の禰宜(ねぎ)がおられ、美しいあさぎ色の袴姿がその人だ。縁あって鹿児島から嫁ぎ、宮司であるご主人とこのお宮を守る宮田彩子さん。赤い袴の巫女さんはよく見かけるが、女性神職はまだまだ少ない。

「神職の家庭で育ちましたので、幼い頃からお宮に仕える以外は考えたことがありませんでしたね。鹿児島では全体の2割ほどが女性神職ですが、佐賀県は1割程度なので、珍しいですね」とよく言われます」。

初めて有田を訪れた際、陶山神社を目指した彩子さん。町の人の案内でようやく辿り着けたものの、参道前に立ってびっくりしたと当時の自分を笑う。そのわけは、神社の境内へと入る急斜面の石段を上りきると納得できる。

「階段を上ったと思いきや、なぜか線路の中にいる自分。一瞬エッ?!?と思いました。今では当たり前になってしましましたが、突如、踏切の音がカンカンカンと鳴り出して、キャーと叫んでおられる参拝者の方もおられます」。



遮断機がないうえに、参道の直前をJR線が横切るスリル満点の神社として、某テレビ番組の珍百景に認定されたこともある。鳥居と狛犬と通過する電車の3ショットは、全国でもここでしか撮れない珍風景だろう。

見どころポイントはまだある。通常、他の神社ならば石造や木造の建造物が、ここでは磁器で造られており、その大きさも目を見張るものがある。境内には当時の名工たちの技が光る名品が点在し、野外美術館とも称される由縁がわかる。

陶山神社は有田焼の歴史とほぼ同じくして、1656年頃に創建。伊万里市二里町大里の神原八幡宮から主祭神・応神天皇の靈が移され、当時は「有田皿山宗廟八幡宮」と呼ばれた。だが、文政の大火で焼失してしまい、今日の本殿や社務所は1880年（明治13年）に建て直されたもの。明治中期は有田焼の大物製作が頂点を極めたころで、中でも社殿前の白磁の狛犬と染付の大水甕、吳須で唐草文が描かれた鳥居の三作は、当時の有田焼の技術力の高さと財力の豊かさを物語っている。境内には他にも磁器製玉垣や日本一の大きさを誇る高さ1.8メートルの青銅製の狛犬、高さ2メートルの燈籠があり、参拝後は神社に奉納された江戸から平成までのやきものをじっくり堪能できる。

続いて紹介したいのが、ここでしか手に入らない究極の御朱印帳。やきものの町の特性を活かして、国内初の磁器製の有田焼御朱印帳を神職自ら奉製された。重さ250グラム、厚みも通常の御朱印帳とほど取り入れました。実際に作る側となつて初めて、有田焼の工程の複雑さを知り、より一層愛情が湧きましたね。社務所の入り口には有田焼の器や小物を飾つて季節感を出し、訪れた参拝者の方々に有田焼に興味を持っていただけたらと私なりに楽しみながら工夫を凝らしています。

思わず欲しくなる御朱印帳。でも一つ一つが手作りのため、数に限りがあることにご理解を。

彩子さんは、毎年5月に行われる陶祖祭にも地域色を出したくて、5年前から神楽舞奉納の巫女を地元の小学生の女の子たちにお願いした。

「春休みに入つてから約1ヶ月ほどみっちり厳しく指導します。舞だけでなく、神社でのお参りの仕方や着物のたたみ方も教えます。彼女たちが中学生や高校生になつても交流は続いて、年賀状のやりとりや時々遊びに来つてはいろんなことを話していくります。高校受験の前日に来てくれた時は、嬉しかったですね。子どもたちが成長していく過程で、お宮は心が帰れるところ、その一端になれたらと思っています」

有田暮らしも早6年。歴史ある神社の繩宜を務め、袴を脱げば婦人部に仲間入りして町内活動に精を出してきた彩子さん。今ではすっか



陶祖祭での神楽舞奉納



有田焼の御朱印帳



有田焼の玉垣



有田焼の狛犬



## ARITA no KAWAII 文・荒岡弥生 写真・片岡聰

### 5 白磁彩菓

有田のお土産ものってなんだろう?と考えた時、「残念なことに何も浮かんでこなかった。これはなんとかしなくちゃ」と有田人としての使命に駆られ、企画構想から製造先の開拓、商品開発、販売、広報、營業までを一人で見事にやってのけた女性がいる。天馬堂の社長兼社員となる深川裕子さんだ。

アイシングクッキーを白磁に見立て、そこに伝統的な有田・伊万里焼の代表的な絵柄をほどこすという画期的のアイデアから生まれた、やきもの風クッキー「白磁彩菓」。パッケージもシンプルで高級感のあるつくりにこだわり、ここにも深川さんの郷土愛、そして有田焼へのリスペクトが感じられる。さらなる仕掛けは、菓子箱に添えられた「Story Note」。やきものにまつわる物語が綴られており、ここにも深川さんの郷土愛、学べる。これはまさに大人の知的好奇心をも刺激してくれるお菓子なのだ。

「これ箸置き? ブローチ? えー、クッキー!! とびっくりされているお客様に出会うと、思わずニヤリとしちゃいます」といって、深川さん。有田のお土産品としてだけでなく、日本のアンティーケを愛する外国の方の目にも留まり、「食べられる有田焼」として評判も上々。第2弾の『鍋島文様』もこの春より発売され、パッケージもリニューアルされた。食べるもよし、愛でもよし。手のひらサイズのスイーツが有田焼の魅力をサクッと発信する。

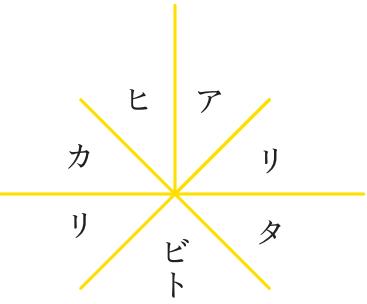


り有田人となり、「帰省先から戻ると、あゝ帰ってきたって思う自分がいる」とケラケラと笑う。そんな姿を見て、ことと決めた場所に根を張れる女性はたくましいなと思った。でも、そうさせてもらったのは、「まちの皆さん優しさがあったから」と、今日までの日々を振り返りながらしみじみそう話して下さった。

「先人たちが守ってきた長い歴史の中で、自分はほんの短い“間”を全身全霊で守って、次の世代につなげていく。それが神職としての自分の使命です」と、凛とした声で語る彼女の横顔が忘れられない。狛犬好きの女性欄宜・宮田彩子さんに、やきものの神様が大きく微笑んでいる。この春修復を終えたばかりの磁器製の大鳥居を仰いだ時、そんな気がして私も自然と笑みがこぼれた。



日本一の大きさを誇る青銅製の狛犬



## 中村 美穂 さん

Miho Nakamura



文＝荒岡弥生  
写真＝片岡聰

ていただいた。

お二人の工房を訪ねると、壁の至るところに見たこともないような美しい昆虫の写真が飾られていた。食い入るよう見ていたせいか、美穂さんは声をかけにくそうに、「昆虫、好きですか？」息子が持っていた昆虫図鑑の虫たちがあまりにきれいで、主人が飾り出したらこんなに増えちゃつて。でも、こうした昆虫の姿がたちに創作のヒントをもらうことが多いんです」と、につっこり笑った。

### 伝統と制約の中でのものづくりに惹かれて

福岡県出身の美穂さんが、有田を訪ねたのは大学院時代。大学で初めて陶芸に出会い、やきものを作った時の充実感から工芸に興味を持ったという。

白磁で知られたろくろの名手である故・中村清六さんが開窯した清六窯に、昨年次々と朗報が舞い込んだ。孫の中村清吾さんの第8回菊池ビエンナーレでの大賞に次いで、清吾さんの妻・美穂さんは佐賀美術協会展と県展で最高賞に輝いた。今回は「ママでも金」をW受賞した美穂さんにスポットを当て、子育てしながら制作に励んだ日々を語つ

「工芸にはたくさんの制約がある、磁土の世界はさらにそれが強くなるんです。わたしは制約のある中でのものづくりが性に合っていたようで、心地いいと感じました。成型技法を学ぶために全国各地の窯元を訪ねる中、ろくろを学ぶなら清六窯と大学院の先生の「押しで有田へ。まさか結婚してこのまま残ることになるなんて、縁って不思議ですね」。

すぐには子宝に恵まれ、ここ10年は一線を退き、家庭と育児に奮闘してきた。子育てをしながら女流陶芸家としての

地位を確立してきた義母のゑみこさんと、育児しながら家庭を裏方として支える妻を見てきた清吾さんは、「このまま彼女の才能を眠らせてはいけない」と思っていたようだ。「作ろうね、そしていつか必ず出品しよう」と言い続けてくれた夫の励ましと理解が、陶芸家としてのもう一人の自分を守ってくれた。

「母と主人の仕事の手伝いをしながら、一緒に働ける環境を作ってもらえたことはありがたかったです。なので、10年間のブランクをさほど感じることなく再スタートできました。創作の大変さを誰よりも知るからこそ、出品までの時間を主人が逆算して、育児と両立しながら制作に打ち込めるように段取りしてくれました」。

### 子どもと過ごした時間を作品に

2019年県展の「鉄染線紋壺」<sup>(てつあわせんもんぱ)</sup>は、清六窯伝統のろくろによる成型を生かしたデザインだが、鉄を使って出す茶色の色合いに新風を感じる。創作のベースとなつたものを尋ねると、「木の実です。子どもたちと拾つた時のことを思い出して、それを作品につなげられたらなあと思いました」と語る美穂さんが、さらに輝いて見えた。

子育て中は幼子のために自分のことは後回しになる。世



# 私の一点

第九回

賞美堂本店 momoco director

文 || 簡井ガンコ堂  
写真 || 片岡聰

蒲地 亜紗



有田焼マグネット（直径4.2cm）

だつたと言う。

小学三年の時から、四つ違いの妹と陶器市で売り子を務めた。期間中の割引き特価で一個受けている印象もあった。祖父の故昭三氏がその父と創業した有田を代表する大店・賞美堂を、母親の桃子氏が受け継ぎ、今、亜紗さんが営業部に籍を置いて、主に商品開発面でサポートしている。「私の家は女系で」と笑いながら教えてくれた。

武雄高校から慶應義塾大学に進んだが、大学時代は東京での催事に出入りし、有田陶器市には帰郷して、家業を手伝つていったのだが、その出発点が幼い頃の有田焼マグネット売り

いた。その間、結婚し、二年前に帰郷、ご主人共々賞美堂本店に勤めることになった。名刺に「momoco director」とあった。momocoは二〇一八年九月に開発されたオリジナル商品で熊の置物のシリーズ。手描きの古伊万里文様ほか種々の文様を施した大小の置物で、五千円から十五万円まであり、ネットなどで売れ行き好調だとか。

亜紗さんは同業の同年代の人たちとも連携して、勉強会に参加し、定期的に会合してイベントの企画を考えたりと、自家の仕事の外に、産地の将来を見据えた活動にも意欲的に取り組んでいる。有田の明日を担う頼母しい人材の一人と言えよう。

大学卒業後、ある期間他企業に勤めた後、東京店で半年間働

# 韓国宫廷料理の 九節板

文三篇井が二堂



まずメニューの多さに感心させられた。ステップ類、ご飯類、麺類、おかず類にそれぞれ数種あり、チャップチエをはじめチヂミ各種、チゲ各種の特製一品料理がある。さらに数種の要予約メニューが加わる。いずれも野菜たっぷりの料理である。野菜は有機栽培のものを使う。料理には化学調味料は極力使わないようし、油はもっぱら胡麻油である。もちろん

んカルビ、タン、レバーなどの焼肉もある。肉は伊万里牛の専門店から仕入れている。ざつと数えて一〇〇を超えるメニューすべてを店主の中村貞子さんは独りで料理する。

ソウル出身の中村さん（帰化前の名前は韓貞淑<sup>ハングンスル</sup>）はもとO.L.だった。それが陶芸家のご主人（数年前に死亡）と共に有田に移住、一念発起して独習した韓国家庭料理の店を開いたのだった。今年十二月で創業二年になる。「これだけ続いたのはお客様さんのお陰<sup>おかげ</sup>」と中村さんは言う。常連客が多いと聞いたが、店が続いたのは、何よりご本人の人柄と努力の賜物だろう。

さて、料理は九節板セット（六千円）。「要予約」の料理である。もと宫廷料理の一種で、祝い事などのもてなし料理だとか。九節板とは料理を九つに分けて盛る器のことから転じて料理名になつたといふ。

薄味で調理した人参、筍、絹さや、  
胡瓜、椎茸、錦糸卵、海老、牛肉の  
八種の具と、ミルジヨンという、小  
麦粉、卵、塩で作つた皮から成り、  
具を皮で包んで食べる。八種の具に  
手間がかかるつていてこれが歴然とし  
てゐる。盛り付けが綺麗で彩りも豊  
かである。写真の伝作窯特製の白磁  
の大皿に盛られた九節板は五、六人  
前といふ。実際に食べてみたが、上  
品で、思いの外、深い味がした。食  
べでもあつた。セットになつていて、  
卵を使つた韓国式海苔巻も美味だつ

なお店名のトراجジとは桔梗のことを意味する。韓国民謡「トラジ」は桔梗摘みの唄だとか。最後に中村さんは「日本での生活が一番長くなりました。日本はいいです。殊に『食』は何と言つても日本が一番です」と沁々と語った。



# 有田に

# 出会える

## お店 <東京>



表紙写真：有田焼の大鳥居（スズメが顔を覗かせています）

一般社団法人有田観光協会  
<アリタノヒキ>9号

取材協力

陶山神社 / TEL.0955-42-3310  
天馬堂 / info@tenmado-arita.jp  
清六窯 / TEL.0955-42-2432  
賞美堂本店 / TEL.0955-42-2261  
韓国家庭料理・焼肉 トラジ / TEL.0955-42-6934

発行元

一般社団法人 有田観光協会  
住所 / 佐賀県西松浦郡有田町幸平1-1-1  
TEL.0955-43-2121 FAX.0955-43-2100  
ありたさんぽ [https://www.arita.jp](http://www.arita.jp) E-mail kanko@arita.jp

企画制作・編集

アリタノヒキ 制作委員会  
アートディレクション：古賀義孝 (Kohga design)  
デザイン：秦佳織 (Kohga design)

## 有田焼やきもの市場 東京・恵比寿店 織草場卯一商店

恵比寿駅から徒歩7分でアクセスに便利な立地。  
有田焼窯元200社の品を取り扱っています。  
名入れのギフトなど特注品も、専門スタッフが  
お応えいたします。すべての品を掲載したネット  
ショッピングをご覧ください。

- 東京都渋谷区広尾一丁目四十九番地  
「恵比寿駅」①出口より徒歩約7分
- JR山手線「恵比寿駅」西口より徒歩7分
- TEL 03-31542217 2271
- 営業時間／10時～19時
- 定休日／なし
- <http://161aritajp>

- http://www.yakimonoichiba-tokyo.com/
- 定休日／（土曜9時30分～17時）
- 定休日／日曜・祝祭日
- <http://www.kakienon.co.jp>

## 柿右衛門窯 東京店

柿右衛門窯元直営の店舗です。

● 東京都港区赤坂六一九一四四  
東京メトロ南北線「六本木駅」より徒歩10分

● 東京メトロ日比谷線「六本木駅」より徒歩10分

● 都営地下鉄大江戸線「六本木駅」より徒歩10分

● TEL 03-33586384 1

● 営業時間／9時30分～18時

● 定休日／年末年始

● <https://www.koransha.co.jp>

## 百田陶園

### パレスホテル 東京店

遙か昔の記憶を引き継ぐように名づけられた  
1616\_arita\_Japanは、有田焼の伝統を踏襲しながら  
もこれまでの有田焼とは異なるデザインアップ  
ローチを試みています。これから未来に寄り添  
う、新しい器のシリーズです。

- 東京都千代田区丸の内一丁目一  
● 「大手町駅」C13b出口より地下通路直結
- 営業時間／10時～19時
- 定休日／なし
- <http://www.genemon.co.jp>

## 今右衛門 東京店

十四代今泉今右衛門の作品及び色鍋島今右衛門直営  
術保存会の作品を展示・販売する有田窯元の直営  
店舗です。

- 東京都港区南青山二丁目六十五番地  
東京メトロ銀座線「青山一丁目駅」より徒歩3分
- 東京メトロ半蔵門線「青山一丁目駅」より徒歩3分
- 都営大江戸線「青山一丁目駅」より徒歩3分
- TEL 03-3401-3441
- 営業時間／9時～18時
- 定休日／日曜・祝祭日
- <http://www.inameimon.co.jp/tokyo/>

## 銀座香蘭社

香蘭社ブランドの商品を販売。2Fギャラリーでは、テーブルウェア教室や絵付け教室、コンサートなどを随時開催しています。

- 東京都中央区銀座六一四一〇  
銀座香蘭社ビル 1F
- 東京メトロ日比谷線「東銀座駅」より徒歩3分
- TEL 03-3543-0951
- 営業時間／10時～18時30分
- 定休日／日曜・祝祭日・年末年始
- <https://www.koransha.co.jp>

## 源右衛門窯 東京店

東京駅に近い、中央区八丁堀にある店舗は直営店  
ならではの品揃えとなっており、窯のこと、やき  
もの、源コレクションのことなどあらゆるご相談  
を承りますので、お気軽にご用命ください。

- 東京都中央区八丁堀三一〇一  
● 都営地下鉄浅草線「宝町駅」A2出口より徒歩約3分
- 東京メトロ日比谷線「八丁堀駅」A3出口より徒歩約5分
- 東京メトロ銀座線「東京駅」より徒歩約10分  
「京橋駅」4番出口より徒歩約10分
- TEL 03-31355101 79
- 営業時間／10時～18時
- 営業時間／10時～18時  
● 定休日／日曜・祝祭日・土曜は不定休
- <http://www.genemon.co.jp>
- <https://shop.shobido-honten.com/>

## 深川製磁 「The House 六本木」

深川製磁のコンセプトSHOP。ゆっくりと時間が流れる隠れ家的な空間の中で、実際の「家」という場面でのライフスタイルを体現する事ができるSHOPです。オーダーメードを併設しており自分らしいが見つかる特別な場と新たなサービスをご用意しております。

- 東京都港区六本木三一五一  
HOMAT WEST NO.120
- 東京メトロ日比谷線「六本木駅」より徒歩7分  
都営地下鉄大江戸線「六本木駅」より徒歩7分
- 東京メトロ南北線「六本木一丁目駅」より徒歩5分
- TEL 03-33589155 20
- 営業時間／11時～19時
- 定休日／火曜日
- <https://www.fukagawa-seiji.co.jp>

## FUKAGAWA SEIJI 1894 ROYAL KILN & TEA

1894年(明治27年)有田で創業した老舗窯元。  
深川製磁。職人技が輝く器を実際に手に取り、食  
とともに体験していただけるティーアヤラリ  
ーです。伝統とモダンが調和する心地よい空間で、  
器が人に馴染み溶け込む感覚を是非ご体感ください。

- 東京都港区赤坂九一七一四  
● 東京ミッドタウンガレリア3F  
● 都営地下鉄大江戸線「六本木駅」より8番出口と直結
- 東京メトロ日比谷線「六本木駅」より地下通路にて直結
- 営業時間／11時～21時
- 定休日／毎月に準ずる
- <https://www.fukagawa-seiji.co.jp>